

松本市教育研修センターだより

No.14 令和5年5月31日

緑深まる 5月の研修から

新緑が徐々に深緑に移りゆく5月。教育研修センターでは11講座の研修を実施し、多くの先生方にご参加をいただきました。いずれの研修でも、参加された先生方の前向きで真摯な姿に、私たち自身がさわやかな元気、そして新たな学びをいただいています。

その中で、今年度、松本市教職員研修計画に基づいて新たなチャレンジとして実施した研修の様子を、いくつかお伝えします。

「対話をベースに、学校のチーム力を高める」 教頭マネジメント研修

5月16日(火)、松本市では初めての実施となる「教頭マネジメント研修」を実施しました。松本市の教頭先生が一堂に会し、二人の講師の先生の導きで、先生方のチーム力を高め、学校の力を最大化するマネジメントのあり方について学び合いました。

午前中は、大阪教育大学教授の田村知子先生を講師に迎え、先生方の対話による振り返りから始める「学校みんなで取組むカリキュラムマネジメント」のあり方についてオンラインでの講義・演習で学びました。

午後は、日本大学教授の北村勝朗先生にご来場いただき「コーチング」の考え方をベースに、職員の「成長」を支援し、学校を前向きなチームに高めるマネジメントのあり方について学びました。午前、午後ともに、様々なワークを通して生き活きと体験的に学び合う研修となりました。



【研修リフレクションシートから】

- ◆これまで受講してきた研修の中で「最も」といってよいほど、充実した研修を受けることができた。また、このことが自校の校内研修のあり方のヒントになった。
- ◆カリキュラムマネジメントを機能させるために何をしなければいけないかと、日々難しく考えていた自分に気づいた。気軽に先生方に声をかけながらきちんと目標を共有し、その目標に向けて皆が実践を共有する時間を確保することが基本であり、大切だと思った。気負うことなく、職員と楽しみながら皆で実践していきたい。

「見方・感じ方が深まる学びを実感」 上高地フィールド実習

5月10日、12名の先生方と青空の下、上高地フィールド実習を行いました。2人の講師の先生と「植物と地質」の視点から科学的に掘り下げていきました。岳都松本のシンボルである上高地について、現地での実習をとおして、校外学習や授業づくりの視点からも新たな発見がありました。また市内の他地域についても実習を充実させてほしいという希望が多く寄せられました。

【研修リフレクションシートから】

- ◆今まで幾度となく足を運んできた上高地でしたが、詳細を知ることでこれまで何も知らなかった世界は白黒で、それにカラフルに色がついていく感覚になりました。講師の先生の話に引き込まれ、実物を見て、触れて、感じながら学べるとても贅沢な時間でした。
- ◆現地で実物を見ながらの学びは格別でした。周りの山を見ながら実験し、隆起のスピードを想像すると大地の雄大さを実感できました。生徒にもそんな感動をしてもらえるよう、現地や本物を感じられるような教材を考へたり工夫したりしたいと思います。



子どもの気持ちを当事者として理解する

不登校児童生徒の理解と支援

5月12日、信州大学の高橋 史先生を講師に迎え、各学校から不登校・生徒指導担当の先生に参集いただき、研修を実施しました。心理学を専門とする高橋先生の様々なワークショップを通して、子どもたちの思いを実感的に理解し、私たち教員が実践できる不登校児童生徒への支援を実践的に捉えました。

「子どもはつらさを大人に見せず、大人は大人でつらさを他人に見せなくなってしまういませんか？ 本来、人間は助け合いの生き物です。まずは、子どもが援助を求められるよう、大人が子どものモデルになることが大切です！！」という高橋先生のメッセージが胸に深く刻まれる研修となりました。

【研修リフレクションシートから】

- ◆不登校には、発生要因と維持要因があり、長期化する不登校児童生徒を理解するためには、維持要因にも目を向ける必要があることを理解しました。
- ◆軽く SOS を出し合える関係性を職員室から始めて、身近な大人として「援助要請モデル」を子どもたちに見せることを実践していきたい。
- ◆喜怒哀楽にもいろいろな種類があり、その感情を言葉に表すことが大切だと知りました。感情、考え、体の感覚を可視化する。気持ちの大きさを%や数字で表す方法を生徒との会話に取り入れてみようと思いました。
- ◆不登校の兆しを早めに察知して、対策を講じるための有効な方策を知ることができました。ワークシートを利用して、心理教育授業を行ってみたいと感じました。

実践への勇気と見通しを持てた！

カリキュラムマネジメント研修

5月25日、「自校の課題解決の方向を学校の先生方と一緒に考え、改善していきたい」と願う先生方が集い、3回シリーズのカリキュラムマネジメント研修の第1回が開催されました。講師に、教頭マネジメント研修でも講師をお願いした大阪教育大学の田村知子先生を迎え、オンラインで実施しました。

研修では、講義とグループ協議を通して「カリキュラムマネジメントは、管理職のみならず、全ての教職員が参加することによって、学校の特色を創り上げていく営み」であることの理解と実践への意欲を深めていきました。参加された先生方が熱心に協議し学び合う姿がとても印象的でした。

【研修リフレクションシートから】

- ◆カリキュラムマネジメントの考え方と実践上でのヒントをたくさんいただきました。一番大切なのはカリキュラムマネジメントとは「子どもの学びをマネジメントすること！」であるということ。「子どもの成長のためにみんなでつくるカリキュラムマネジメント！」であるということ。生徒を真ん中に置いたものであることを忘れてはいけないと改めて感じました。その上に職員の合意形成がなされることが大切だと感じました。
- ◆「カリキュラムマネジメント検討用シート」の項目をチェックして、学校内でできていないことを、自分自身がしっかりとつかめていないことがわかりました。また、最後に PDCA 間のつながりを考えたときに、リーダーの役割が大切であることを再認識しました。リーダーが「チャレンジしてみよう」と言ってあげることが、いろいろな状況を変えていくことにつながると思います。



《お知らせ・お詫び》

すでに各学校にはお知らせしたところですが、6月15日に予定していた「教育哲学研修」が講師の先生のご都合により、やむなく中止することとしました。ご参加を予定されていた皆様に、心からお詫び申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。